

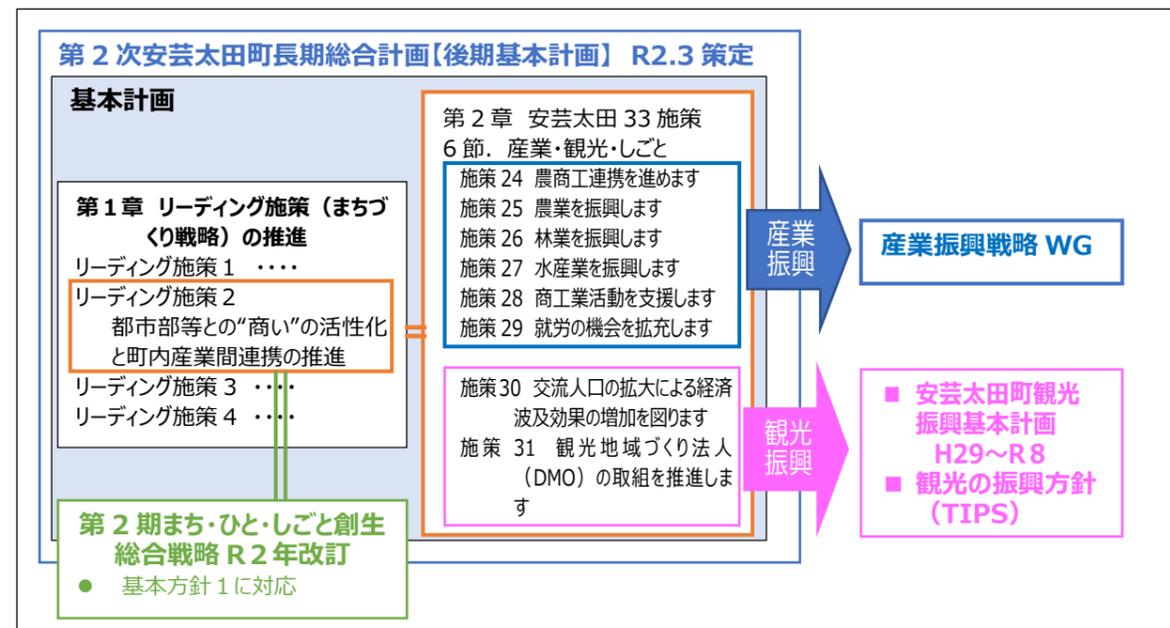
安芸太田町観光・産業振興戦略（案）

1. 策定の目的、計画の位置づけ

安芸太田町では、上位計画として「第二次安芸太田町長期総合計画（後期基本計画）」が令和2年度に策定されている。

また、平成30年度重点道の駅に選定された“道の駅来夢とごうち”は、安芸太田町の観光・産業の核としての位置づけがなされており、道の駅本体及び周辺施設のハード・ソフト面からのリニューアルを行うこととなっている。

こうした状況を踏まえ、本業務では、安芸太田町における道の駅を核とし、with コロナ、after コロナの時代を生き抜く地域観光・地域産業の振興を戦略的に推進していくため、産業・観光振興のビジョンを明確にし、戦略的に実行していくための計画を策定するものとする。



道の駅を中心に重点的に取組む施策を抽出

安芸太田町観光・産業振興戦略

- 「産業振興戦略 WG」及び、「安芸太田町観光振興基本計画」「観光の振興方針（TIPS）」での検討結果を踏まえ、特に道の駅を中心に安芸太田町の観光振興や産業振興を進める上で重点的に取組む施策（施策24、25、28、29、30）を取りまとめた計画
- 町としての観光・産業推進体制（施策31）を取りまとめた計画
- 道の駅が関わった道の駅以外の場所での施策も盛り込んで整理したもの
- 将来像は「第2次安芸太田町長期総合計画【後期基本計画】」と整合しており、道の駅の視点から言葉を見直す

計画の位置づけ

2. 将来像の考え方

観光、産業ともに将来像を記載いただいたが、安芸太田町の最上位計画である「第二次安芸太田町長期総合計画（後期基本計画）」の政策分野VI、第6節、産業・観光・しごとのめざすべき姿をもとに共通の将来像を定める。

※それぞれに記載いただいた将来像は戦略方針などの大きな方向性を示す部分に集約する。

<政策分野VI、第6節. 産業・観光・しごと>

町内の事業者や起業者の「儲ける力」を促進するとともに、町の自然資源、文化資源等を活用し、交流人口の拡大を図る

<観光における課題>

- 観光活力の不足
 - ・ 労働力の減少
 - ・ 観光ニーズへの対応とコンテンツの魅力不足
 - ・ 食・土産物の魅力不足
- 情報発信不足
 - ・ 観光資源の魅力の情報発信一元管理ができていない
- 観光資源の安全・快適性や連携不足
 - ・ 観光インフラの老朽化、観光資源の連携不足
 - ・ インバウンド対応の不足
- 運営体制機能の不足
 - ・ 観光を支えようとする住民の力の結集が不足
 - ・ 適正な役割分担による運営体制の不足

<産業における課題>

- 農業基盤が弱い
 - ・ 耕作放棄地や荒廃林地の増加、鳥獣被害の増加
 - ・ 営農指導の機能不足
 - ・ 1次産業の就業者が減少・高齢化（人材不足）
- 魅力ある商品・量と集荷の仕組みの不足
 - ・ 地域の商業が停滞
 - ・ 直売所で販売する商品の不足（品数・量）
 - ・ 付加価値の高い加工品等の提供・強化
- 販売の場や仕組みの不足
 - ・ 地域の商業が停滞
 - ・ 販売の場や仕組みが不足

<観光・産業振興を進める上での将来像>

道の駅を核に質の高い魅力的な商品や観光を提供するまち
 ～儲かる観光・産業を構築し、交流人口・関係人口・定住人口を創出～

将来像設定の流れ

3. 観光・産業振興戦略の方針

(1) 観光の将来像・戦略方針

観光の将来像及び戦略方針は以下のとおりである。

観光の将来像

量から質へ転換した新たな観光振興
(安芸太田らしさを生かした質の高い着地型観光を提供するまち)

戦略方針 1. 今だけ、ここだけ、あなただけの提供による安芸太田らしい質の高い観光・食の提供

<将来の姿>

- ・ 自然、人、伝統文化を活かした安芸太田にしかないストーリーを付加価値として提供し、安芸太田町のファンが増えている。
- ・ 森林セラピーをフラッグシップとしたキャンプ、グランピング、農泊による町ぐるみの体験型観光で安芸太田町に滞在する人が増えている。
- ・ あきおた品質基準により付加価値の高い商品が増えている。
- ・ 道の駅での新たな食のメニュー、食材の開発により魅力的な食や土産物が提供されている。
- ・ 安芸太田らしい質の高い観光・食の提供により地域に金を落とす(マネタイズ)、地域外に金を出さない仕組みができています。

戦略方針 2. 町のブランドメッセージの継続的発信・コンタクトによる安芸太田ファンコミュニティの構築

<将来の姿>

- ・ ヘルスツーリズムを核にした自然の中での食、体験、宿泊など居心地の良い過ごし方に共感した方が安芸太田町に訪れている。
- ・ ターゲット顧客、優良顧客に向けた継続的な情報発信によって来訪者が必要とする情報が常に提供されている。

戦略方針 3. 安全・安心・快適な魅力ある観光の提供

<将来の姿>

- ・ 道の駅周辺および各エリアの観光施設(観光行政施設)までの移動手段が確保されスムーズに安芸太田町を巡ることができている。
- ・ 民間の力(ノウハウ、資本)が活用された魅力的な観光施設が安芸太田町に立地しており、それを目的に多くの来訪者が訪れている。
- ・ 誰もが利用しやすいトイレ、わかりやすい野外広告掲示物が整備されることで快適に安芸太田町内を散策できている。

戦略方針 4. まち全体で支える観光体制が構築され、来訪者をおもてなしする仕組みの構築

<将来の姿>

- ・ ブランドイメージが共有され、町民や事業者が道の駅が地域のシンボルとなっていると誇りに思っている。
- ・ 官民連携、域外資本との連携による推進体制(プラットフォーム)が構築され、観光地域づくり法人(DMO)を中心とした観光振興が進んでいる。

(2) 産業の方針

産業の将来像及び戦略方針は以下のとおりである。

産業の将来像

道の駅を核とした産業の振興
(魅力的な農産物を生かした食材・食・加工品を提供するまち)

戦略方針 1. 儲かる産業基盤の整備と就農に関する情報発信

<将来の姿>

- ・ 使える農地を集約化し、町内の担い手や新たに農業をしたい人が農地を活用しやすい状態となっている。(耕作放棄地や荒廃林地が減少している)
- ・ スマート農業推進により担い手の負担軽減と所得向上が図られ、センシング技術を用いた新しい野菜づくり等による出荷が増えている。
- ・ 営農指導のプロを県の普及員 OB など外部から招聘することで様々な農作物が町内で作られ、農業従業者の収入が増えている。
- ・ 自給的農家から販売農家への転換や都会に住む農業に興味のある方が研修制度等を活用し、安芸太田町で農業に従事する人が増えている。
- ・ 農業後継者として外部人材を確保し、営農や産品加工の継承に取り組んでいる。

戦略方針 2. 付加価値の高い農産物の生産・加工品の創出

<将来の姿>

- ・ 安定した農産物の質と量を確保したい祇園坊柿農家や季節に左右されず安定した収入を確保したい加工業者が、地元の食材等を活用した特産品等を開発し、安定的な収入が得られている。(産直市の充実により町内の野菜や加工品等の生産者の生産意欲が向上している)
- ・ 加工品を作りたい、自由時間を使って仕事をしたい女性起業家等が集まって新たな商品が開発されている。
- ・ 地理的に産直市への出荷が難しい農家、小規模農家や担い手農家でもの方も自慢の農産物を道の駅に出荷できる集荷システムが機能している。
- ・ リレー出荷体制構築によって人気の農産物が長期間にわたり道の駅やインターネットに安定出荷でき、産地としての認知度が高まっている。

戦略方針 3. 町民・来訪者がいつでも購入できる販売流通の仕組みの強化

<将来の姿>

- ・ 町内に住む者(運転免許のない人、高齢者等)が品ぞろえの良い直売所で魅力的な地元の農産物や加工品などがいつでも購入できる。
- ・ 観光地に行く途中で道の駅に立ち寄り方が、品ぞろえの良い道の駅や直売所でキャンプの食材やお土産等を購入している。
- ・ 道の駅に来訪しなくても、安芸太田ファンが、地域の新鮮な商品をインターネット利用で購入できている。
- ・ 産直市の運営主体となる組織が明確化され、安定した運営が継続することにより、産直市が売り場として生産者・消費者ともに信頼を得ている。
- ・ 産直市以外でも、地元産品を活用した付加価値の高い加工品等を購入することができる。

4. 将来像を達成するための取組（施策）

観光・産業振興を進める上での将来像「道の駅を核に質の高い魅力的な産品や観光を提供するまち」をめざすため、以下の施策に取り組む。

（1）観光分野の取組（施策）

観光分野においては、4つの戦略に対し以下の施策に取り組む。また、戦略ごとに重点的に取り組む終点施策を設定し、目標達成に向かって戦略的に取組みを進めていく。
なお、本計画において道の駅の施設整備に関する記載についても整理している。

赤太文字：重点取組

太文字：道の駅施設整備に関する記載

表 観光分野の施策

戦略方針	施策名	施策概要	実施時期	実施主体
1. 今だけ、ここだけ、あなただけの提供による安芸太田らしい質の高い観光・食の提供	道の駅再整備（町の観光・産業のエンジンの整備）	・ 観光地をつなぐハブとなり、旬な情報（体験・特産品・食）のショールームの役割を担い、あきおた品質を体感できる道の駅の整備 ・ 天候に左右されないあそび場、休憩スペース、飲食スペース等の整備 ・ 施設内の回遊性向上、備蓄機能の確保	短期	町・民間事業者
	観光旅行業（DMC）によるツアー造成（魅力の組み合わせの最大化）	・ 安芸太田の魅力を発信するため、農業・林業・観光体験施設と連携した体験プログラムのツアーを造成し提供	短期・中期・長期	地域商社
	新メニュー、食材開発（地産地消）の推進	・ 顧客に寄り添ったブランディングされた食の開発・提供	短期・中期・長期	地域商社・民間事業者
	土産物の開発	・ 地域の食や自然を活かした土産物の開発・提供	短期・中期・長期	地域商社・民間事業者
	Eコマース拡充	・ マージン体系・物流整備、出店者確保・育成	短期・中期	町・地域商社・民間事業者
2. 町のブランドメッセージの継続的発信・コンタクトによる安芸太田ファンコミュニティの構築	町ブランドメッセージの検討・可視化	・ ブランドメッセージ（キーメッセージ）を可視化して一貫した価値を伝える	短期	町・地域商社
	観光プロモーションの実施	・ シナジー効果を生み出す観光プロモーションの実施（パブリックリレーションズ（PR）、セールスプロモーション（SP）、PS、広告）	短期・中期・長期	町・地域商社
	デジタルマーケティング手法（ソフト）の導入	・ デジタル・アナログ両軸での顧客管理体制を整備し、リピーター（ロイヤルカスタマー）の獲得・育成を図る	短期・中期	町・地域商社
	HPの多言語化表示	・ インバウンド観光にも対応可能なホームページの多言語化	短期	町・地域商社
3. 安全・安心・快適な魅力ある観光の提供	2次交通の充実	・ 道の駅を核としたバスやレンタカー、自転車やタクシーなどの交通機能の充実 ・ 2次交通を快適に活用するためのオペレーションフロー（人材育成）の充実	短期・中期	町・交通事業者
	周遊観光案内（各エリアをつなぐ観光）の構築	・ 安芸太田町内の観光施設事業者と道の駅とが連携した周遊観光案内ルート、マップを作成 1. WEBサイト、各種映像、プロモーション手法、各種機関との関係性を構築	短期	町・地域商社
	総合受付機能・観光コンシェルジュの設置	・ 町なか観光スポットや各種体験の案内など顧客ニーズに応えたおもてなしを推進する ・ 予約受付や荷物預かりなど道の駅を基点としてお客様が気軽に周遊できるような機能を拡充 2. 移住・定住等を支援するサポートセンター機能を設置する	中期	町・地域商社
	看板、商品案内等の多言語化表示	3. 町内観光施設及び道の駅の看板、商品案内等の多言語化表示	中期・長期	町・地域商社・民間事業者
4. まち全体で支える観光体制が構築され、来訪者をおもてなしする仕組みの構築	生産年齢、個人・団体に関係なく参画できる事業の拡充	4. 地産地消を推進するチャレンジショップ機能等の充実により地元事業者・住民の参画・連携の間口を広げる	短期・中期・長期	町・地域商社・民間事業者
	推進協議会の設置（事業者と意見交換、相互支援体制構築）	5. 道の駅運営主体である地域商社の機能として、推進協議会を活用し事業者が主役となるための情報発信手法や観光アイデアを道の駅の施策に反映するしくみを構築する	短期	町・地域商社
	マーケティング及び財務の専門家の育成	6. CMO（マーケティング責任者）、CFOの育成（財務専門家）による業務力強化）	短期・中期	町・民間事業者

(2) 産業分野の取組（施策）

産業分野においては、3つの戦略に対し以下の施策に取り組む。また、戦略ごとに重点的に取り組む終点施策を設定し、目標達成に向かって戦略的に取組みを進めていく。
 なお、本計画において道の駅の施設整備に関する記載についても整理している。

赤太文字：重点取組

太文字：道の駅施設整備に関する記載

表 産業分野の施策

戦略方針	施策名	施策概要	実施時期	実施主体
1. 儲かる産業基盤の整備と就農に関する情報発信	農地の集約化・マッチング	・耕作放棄地や荒廃林地の情報を集約し、新たに農業従業者とのマッチングを実施	中期・長期	町
	スマート農業の推進	・ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する新たな農業の導入	中期・長期	町
	有害鳥獣対策の強化とジビエとしての活用	・防護・捕獲・生息環境整備及び資源活用の野生鳥獣対策の総合的な実施 ・適切な解体施設の設置と捕獲情報の共有によりオーガニック食材としてジビエ活用を実現	短期・中期・長期	町
	指導体制の構築	・専属の営農指導員の配置による町内農家への指導体制の構築 ・営農指導体制強化による小規模農家への出荷野菜の多品目化の指導によって付加価値の高い農産品の増加	短期・中期・長期	町
	農業人材研修制度等の活用検討	・研修制度や地域おこし協力隊等を活用し農業に従事する外部人材を確保	短期・中期・長期	町
	1年を通じた雇用の確保	・通年雇用促進のため、スキー場等冬場の仕事を確保する。住環境を合わせて提供し、外部人材を確保する。	短期・中期・長期	町・地域商社・民間事業者
2. 付加価値の高い農産物の生産・加工品の創出	(仮)加工販売協議会の連携強化と生産支援	・規格を統一化することで連携した生産・販売体制を構築	短期	町・民間事業者
	地域商社での集荷システムの構築	・町内遠方からの野菜の出荷を増加させ、安定的に農産物を確保するため小規模農家や担い手農家からの集荷体制を強化	短期・中期・長期	町
	認定農業者間の連携強化	・連携による生産に関する情報の共有	短期	町
	出荷ルールの再構築	・出荷のハードルを下げるため、出荷ルールの再構築 ・野菜等の適正価格での販売	短期	町・地域商社・民間事業者
	リレー出荷体制構築	7. 標高差（気候）を生かしたリレー出荷体制の構築	中期・長期	農業事業者
	IT活用による出荷管理システムの再構築	8. IT活用による、生産者へのリアルタイムに必要な情報を提供できる体制づくり	中期・長期	町
	産直市に隣接した食品加工所等の整備	9. 事業者による新たな特産品や目玉商品等売れる商品の開発 女性起業家など多様な人材による商品開発	短期	町・民間事業者
3. 町民・来訪者がいつでも購入できる販売流通の仕組みの強化	産直市の運営主体組織の構築	10. 産直市の運営主体となる組織の明確化による安定運営	短期	地域商社・民間事業者
	道の駅内の直売所の整備	11. 町民の日常の買い物に対応できる直売所の整備 来訪者がキャンプの食材や薪、お土産等を購入するために立ち寄る直売所や物産販売所の整備	短期・中期	町・民間事業者
	農家レストラン、棚田カフェ等の活用	12. 地元産品を使用した料理や加工品、スイーツ等を提供	短期	民間事業者
	直売所での販売、e-コマースでの販路開拓	13. 地産地消を含めた販路の開拓 e-コマース等を活用した流通増加	短期・中期	地域商社・民間事業者

＜安芸太田町観光・産業振興戦略の概要＞

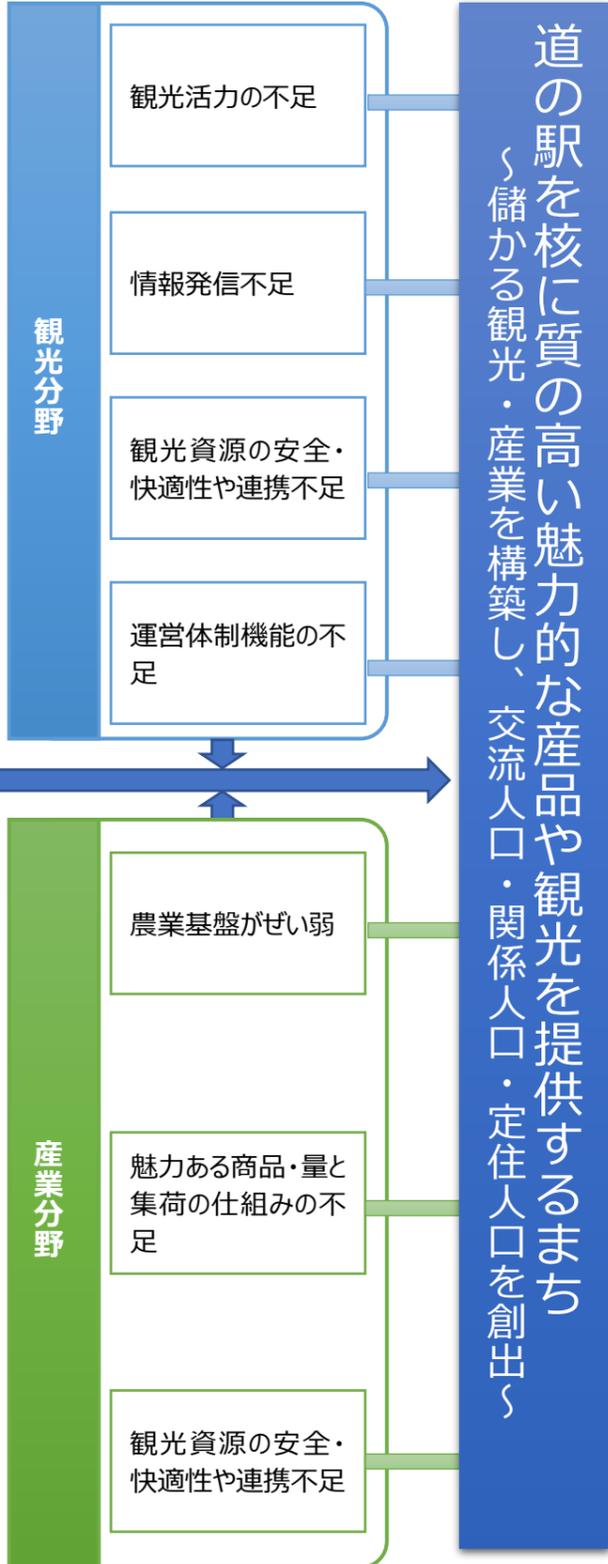
上位計画

課題

将来像

町内の事業者や起業者の「儲ける力」を促進するとともに、町の自然資源、文化資源等を活用し、交流人口の拡大を図る

政策分野Ⅵ、第6節 産業・観光・観光・観光



戦略方針	施策 ※は重点施策	実施時期			実施主体		
		短期	中期	長期	町	地域商社	民間事業者
今だけ、ここだけ、あなただけの提供による安芸太田らしい質の高い観光・食の提供	※道の駅再整備（町の観光・産業のエンジンの整備）	■			●		●
	観光旅行業によるツアー造成（魅力の組み合わせの最大化）	■	■	■		●	
	新メニュー、食材開発（地産地消）の推進	■	■	■		●	●
	土産物の開発	■	■	■		●	●
町のブランドメッセージの継続的発信・コンタクトによる安芸太田ファンコミュニティの構築	Eコマース拡充	■	■		●	●	●
	※町ブランドメッセージの検討・可視化	■			●	●	
	観光プロモーションの実施	■	■	■	●	●	
	デジタルマーケティング手法（ソフト）の導入	■	■		●	●	
安全・安心・快適な魅力ある観光の提供	HPの多言語化表示	■			●	●	
	2次交通の充実	■	■		●		●
	※周遊観光案内（各エリアをつなぐ観光）の構築	■			●	●	
まち全体で支える観光体制が構築され、来訪者をおもてなしする仕組みの構築	総合受付機能・観光コンシェルジュの設置		■		●	●	
	看板、商品案内等の多言語化表示		■	■	●	●	●
	生産年齢、個人・団体に関係なく参画できる事業の拡充	■	■	■	●	●	●
付加価値の高い農産物の生産・加工品の創出	推進協議会の設置（事業者と意見交換、相互支援体制構築）	■			●	●	
	※マーケティング及び財務の専門家の育成	■	■		●		●
	農地の集約化・マッチング		■	■	●		
儲かる産業基盤の整備と就農に関する情報発信	スマート農業の推進		■	■	●		
	有害鳥獣対策の強化とジビエとしての活用	■	■	■	●		
	※指導体制の構築	■	■	■	●		
	農業人材研修制度等の活用検討	■	■	■	●		
	1年を通じた雇用の確保	■	■	■	●	●	●
町民・来訪者がいつでも購入できる販売流通の仕組みの強化	（仮）加工販売協議会の連携強化と生産支援	■			●		●
	※地域商社での集荷システムの構築	■	■	■	●		
	認定農業者間の連携強化	■			●		
	出荷ルールの再構築	■			●	●	●
	リレー出荷体制構築		■	■			●
観光資源の安全・快適性や連携不足	IT活用による出荷管理システムの再構築		■	■	●		
	産直市に隣接した食品加工所等の整備	■			●		●
	※産直市の運営主体組織の構築	■				●	●
	道の駅内の直売所の整備	■	■		●		●
観光資源の安全・快適性や連携不足	農家レストラン、棚田カフェ等の活用	■					●
	直売所での販売、e-コマースでの販路開拓	■	■			●	●

5. 戦略実行体制

実行体制は道の駅を核に以下のようなプラットフォームを構築し、プレイヤーと連携しながら観光・産業振興戦略の施策に取り組む。

また、安芸太田町役場や地域商社あきおおたは道の駅と連携しながらプラットフォームの関係協議会をつなぎ観光・産業振興戦略の施策に取り組む。

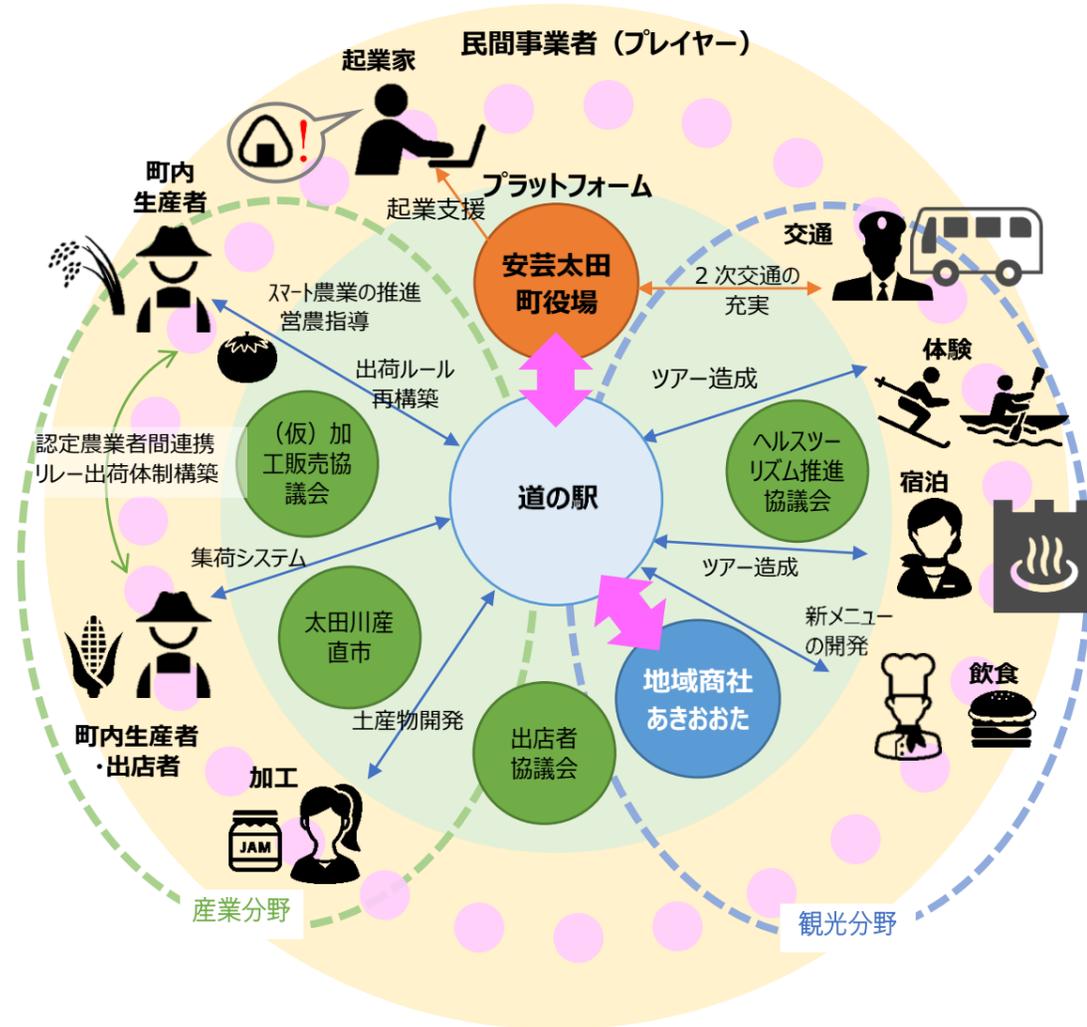


図 実行体制

表 役割分担(案)

組織		主な役割
道の駅運営主体		<ul style="list-style-type: none"> 道の駅施設の管理・運営 直売所運営（E-コマース） 町ブランドメッセージの可視化（ホームページ（あきおおたから）の運営・ポータル化）
プラットフォーム	協議会等	<ul style="list-style-type: none"> (仮)加工販売協議会 <ul style="list-style-type: none"> 町内生産者と加工業者をつなぎ、安芸太田を代表する加工品の企画・製造を実施 規格を統一化することで連携した生産・販売体制を構築 太田川産直市 <ul style="list-style-type: none"> 出荷ルール、適正価格ルールなどを定め良質な商品を直売所に提供 標高差（気候）を生かしたリレー出荷体制の構築 出店者協議会 <ul style="list-style-type: none"> 道の駅の出店者が集まり、販売のルールを決定 イベント等の企画・運営の調整 ヘルスツーリズム推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> 道の駅と連携した森林セラピーをはじめとした体験観光メニューの企画・運営 飲食店と連携した新商品の企画開発
	安芸太田町	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅再整備 IT活用による出荷管理システムの再構築 HP、看板等の多言語化表示 推進協議会の設置 農地の集約化・マッチング 有害鳥獣対策 農業人材研修制度等の活用 祇園坊柿加工販売協議会の連携強化と生産支援 2次交通の確保 マーケティング及び財務の専門家の育成 起業家に対する起業支援
	地域商社あきおおた	<ul style="list-style-type: none"> 観光コンシェルジュの設置（周遊観光案内の構築） 旅行業取得によるツアーの企画・運営、観光プロモーションの実施 推進協議会の運営・連携サポート
	民間事業者（プレイヤー）	<ul style="list-style-type: none"> 町内生産者・出店者 <ul style="list-style-type: none"> 質の高い農産物等を生産 加工業者 <ul style="list-style-type: none"> 町内生産者と連携し、安芸太田を代表する加工品を製造 交通事業者 <ul style="list-style-type: none"> 町民の生活環境維持のための公共交通の維持 来訪者向けの観光2次交通の整備 体験事業者 <ul style="list-style-type: none"> 安芸太田町の資源を活用し、来訪者のニーズを踏まえた体験観光メニューの運営 宿泊事業者 <ul style="list-style-type: none"> 来訪者のニーズを踏まえた体験観光メニューに即した食やサービスの提供 飲食事業者 <ul style="list-style-type: none"> 安芸太田町の食を活かした飲食の提供 起業家 <ul style="list-style-type: none"> 安芸太田町の資源を活用した新しい商品開発等による地域活性化への貢献